

情報通信審議会 情報通信技術分科会 産学官連携強化委員会
推進戦略WG（第5回）議事概要

1 日 時 平成22年3月8日（月） 10時00分～12時00分

2 場 所 総務省 5階 第4特別会議室

3 出席者（敬称略）

構成員

相澤清晴（主任）、浅野睦八、河合正昭（代理：矢野倫正）、下條真司、鈴木京子、鈴木浩之、関口潔、関根千佳、田中寛、武市博明、富田二三彦、富永昌彦、中川八穂子（代理：西村信治）、野原佐和子、八木伸行、横井正紀（代理：中林優介）

事務局

藤田和重（技術政策課企画官）、枚浦維勝（同課課長補佐）、他

4 議事要旨

（1）研究開発の推進方策の検討のまとめについて

事務局より、推-5-1及び推-5-2に沿って、産学官連携強化委員会での報告状況について説明があった。主な質疑は以下のとおり。

野原構成員：あまり議論されていないが、どういうものが産学官連携に向いていて、どういうものが向いていないのか分かりづらい。

事務局より、推-5-3、推-5-4及び推-5-5に沿って、報告書の骨子（案）について説明があった。

（2）ディスカッション

ここより（1）を踏まえ、構成員によるディスカッションとなった。主な意見は以下のとおり。

野原構成員：産学官連携が互いの情報交換であれば必要だと思うが、共通課題に対して一緒に研究開発をやっていくことであれば、各々が手を組む必要は必ずしもあるわけではないのではないか。

下條構成員：様々な技術シーズを展開する中で、産学官のプレイヤーが色々な役割を担っている。それぞれのプレイヤーがタッグを組むのか、ある程度自由にやるのか、結びつきの強さはいろいろあると思う。

野原構成員：推-5-1（p11）の図を見ると、大学、NICT、民間でそれぞれ橋渡しをすればよいのではないかと思う。

下條構成員：図はもう少し自由度を持たせた方がよいのかと思う。また、推-5-4（p9）でNICTが真ん中にあるのに違和感がある。NICTがこの部分しかできなくなるのではないか。

関根構成員：推-5-1（p10）では民産学官が連携しているのに（p11）では民がない従来通りの図ではと先日の委員会で議論となり、推-5-4（p9）の図になったのではと思う。また「ICT分野の技術動向」の部分は、もっとICT全体を俯瞰した上で、その中でNICTの研究成果や役割を明確化するほうがよいのではないか。またせっかく省庁間で連携するならば、科学技術政策全体に対しての提言とした方がよいのではないか。

相澤主任：推-5-3（p12）「我が国のICT分野における政策動向」は総務省を越えた部分も入るといいかもしれない。また、最終的にサービスを作るときの障壁はどんどん低くなっているように感じる。出口だけを重視してしまうと基礎的な部分が欠け薄っぺらいものになるので、きちんとバランスが取れていることが重要である。

下條構成員：推-5-3（p12）では、IT戦略本部と総合科学技術会議がもっと連携を強化すべきで、その下に各省庁がぶら下がるイメージである。また、ここでは「技術

- 戦略」にしか触れていないが、IT戦略本部の機能の一つとして「技術戦略」があるのであって、それ以外の機能も記述があると良い。
- 富田構成員 : 推-5-4 (p9) に「NICT」とあるのは例えば「公的研究機関(NICT)」とした方がよいかもしれない。また、推-5-1 (p11) では、大学も実用段階に近いこともやるので、幅広く取れるようにした方がよい。
- 野原構成員 : 「NICT」は研究開発スキームではないと思う。
- 富永構成員 : そもそもNICTは情報通信分野の研究の全てをやっている訳ではない。総務省の審議会で定められた日本としてやるべきテーマから、NICTがやるべきものを行っている。研究実施主体とスキームは分けた方がいいかもしれない。
- 下條構成員 : 推-5-4 (p9) の研究推進体制はどこに主体があるのかが分からない。同様の検討はNICTの中でもやっている。
- 八木構成員 : 推-5-4 (p8) に省庁間の連携がうたわれているので、形としては推-5-1 (p11) の方がよいと思う。その中で総務省、NICTだけでなく他省庁のスキームもはめていって、うまくはまらない部分が出たら、そこが新しい提言になるのではないかと。
- 下條構成員 : 仕分けとしてやらなければならないのはファンディングについての整理。総務省が他省庁の制度を見て考えなければ、国としての戦略性が全くなくなってしまう。
- 相澤主任 : 大学とNICTと民間企業の分担を、確立分布のように重なる書き方に工夫してみてもどうか。
- 関根構成員 : 推-5-4 (p9) の「入口から出口まで一貫して俯瞰する体制」に(NICT)と付け加えてはどうか。NICTは自主研究と委託研究を混ぜて書いているので分かりにくいのではないかと。
- 富田構成員 : 民産学官を協調する意味で、推-5-4 (p5) に「国民や産業界からの社会ニーズをもとに」と入れた方がよい。また、国民や産業界が欲しいのはアプリケーションであり、研究開発は比較的そこから遠いところを行っている。「出口」は今見えている出口だけではないので、例えば「出口あるいは未来世界創造まで」としてはどうか。
- 野原構成員 : 「出口」を曖昧な言葉として使わず、明確に書いた方がよい。
- 事務局 : 研究開発におけるこれまでの「出口」という言葉の使い方は、実用化がメインである。
- 武市構成員 : 推-5-4 (p9) は、始めた研究は全て成功するという前提の図である。ダメな研究は捨て去るのも重要であり、見切りをつけるための基準も必要。
- 事務局 : 絵だけで全ては表せないなので、文章できちんと書いていく方向で整理したい。
- 下條構成員 : 重複のない研究開発はありえないので、性格の違うものが重複して成り立っているということを主張して欲しい。
- 鈴木(京)構成員 : 失敗した研究に見切りをつける話は、積極的な書きぶりにしてほしい。推-5-4 (p9) に「死の谷」とあるのが気になる。産学官が連携して死の谷を乗り越えることが具体的に書きにくくのであれば削除してはどうか。
- 野原構成員 : 報告書全体を通して社会ニーズを踏まえた技術とあるのはいいが、社会ニーズは日本国内のものだけではなく、グローバルなものも踏まえて欲しい。最終的な実用化の段階で世界に勝てるようなものを作るべきである。
- 鈴木(浩)構成員 : 推-5-4 (p2) の問題意識には標準化とあるが、推進体制に出てこないのはなぜか。
- 事務局 : 特に事情はない。研究開発という中に標準化を含んでいるということである。
- 関根構成員 : 「国際展開戦略」に標準化は含まれているのではないかと。
- 中林構成員代理 : 推-5-3 (p12) に関連して、「産学官連携とは何か」「なぜ産学官連携をしなければならないのか」が見えづらい。NICTと大学と民間企業の図で言えば、それぞれのプレイヤーが果たす役割について踏みこんだ説明が必要なのではないかと。
- 下條構成員 : それぞれのプレイヤーの現状の役割が十分かと言うと十分ではない。3つ問題があり、1つは人材の流通の問題である。日本の場合、人材が流通せず技術そのものが死んでしまっている。2つ目は知財の問題。大学や企業で知財を抱えたがために死んでいく技術がある。3つ目は財政の問題。大学と企業と官で財務的な扱

いが異なり、またファンドのスキームによっても違っている。一つのお金の使い方が異なることは非常に非効率である。

中林構成員代理：このままでは民間から見た時、産学官連携のインセンティブが見えにくく、産学官連携が進まないのではないか。

(3) その他

資料について修正等の意見があれば、別途事務局へ送付することとなった。

以上